

CASE 10

企業名

矢田工業株式会社

矢田工業株式会社



仕事に対して熱意のある人材は、国籍に関係なく、他の社員たちから信頼される

企業インタビュー



常務取締役
成田 祐樹 氏

事業内容

鉄橋の橋桁を中心に、鋼構造物の調査・設計・製作・現場施工を行う。全国でも有数の広さを誇る工場を所有し、創業より76年2,600橋以上を手がけてきた。2015年には、海外進出の足がかりとして、ベトナム現地法人『Y.A.B.C.』を設立。

企業概要

企業名：矢田工業株式会社

所在地：福島県郡山市西田町鬼生田字阿広木1番

設立年：1949年

資本金：8,072万円

従業員数：143名

うち高度外国人材4名

出身国・地域：ベトナム4名

業種：建設業（職別工事業（設備工事業を除く））

ホームページ：<https://www.yada-k.co.jp/>

高度外国人材を受け入れたきっかけ・背景

ベトナム法人設立をきっかけに、ベトナム人材の採用を開始

鉄橋など鋼構造物の製作・施工を手がける当社は、交通インフラの国内需要に陰りが見え始める中、経済成長が著しいASEANへの進出を検討し始めました。中でも地理的に中心に位置するベトナムに注目し、2015年に現地法人を設立。「良い橋造りには自国への貢献意欲が大切だ」という考えから、同法人をベトナム人社員だけで運営することを視野に入れ、ベトナム人材の採用を開始しました。

高度外国人材受け入れに当たっての取組内容

他企業へのヒアリングをもとに、生活のサポート体制を整備

もともと海外研修を積極的に行っていたため、外国人材と働く抵抗感はそれほどありませんでした。とはいえ、外国人材の採用は初めてだったので、採用経験のある他企業にヒアリングしつつ、生活のサポート体制を整備。住居や通勤用の自動車を用意した他、自治体が外国人向けに提供する日本語教室などのサービスや、会社近くのベトナム人コミュニティについても事前に調査しておきました。

高度外国人材採用に当たっての課題と解決策

入社前に、現地で日本語とビジネスマナーを学んでもらう

当初は、ベトナム現地の就職情報サイトに求人情報を掲載するなどして、採用活動を進めましたが、日本への憧れが大きい一方で、日本で働くのに日本語力とビジネスマナーがいかに重要かを理解していない応募者がほとんどでした。そこで、日本で働く具体的なイメージを持ってもらうため、内定者には入社前に数ヶ月間、現地で日本語学校に通ってもらうようにした他、ビジネスマナーについて学んでもらう機会も設けました。それでもなお、採用競争率が高いという課題はあります。日本の大手企業の中には、現地の大学で授業を開講したり、学生に奨学金を提供したりして、早くから優秀な学生とコネクションを作っているからです。そこで、当社も今後は現地の大学と連携し、ワークショップやジョブフェアを開催していこうと考えています。

CASE 10



高度外国人材定着に当たっての課題と解決策

社員の家族を含めたサポートとキャリア志向の見極めが大切

これまでベトナム人社員の中には退職者もありますが、その要因の一つはライフステージの変化でした。例えば、ある男性社員は、妻の妊娠が判明した時に、子どもの育てやすさを重視してか、ベトナム人コミュニティの大きい首都圏に移住。サポートが不十分だったかもしれないと考えた当社は、別の男性社員の妻が妊娠した際、病院選びや出産の給付金助成などの情報集めを一緒に行うようにし、結果的に彼には働き続けてもらうことができました。

もう一つの退職要因は、キャリア志向の違いです。当社は、土木・建設を専攻した理系人材を採用していますが、給料や待遇などを理由に別業界に転職した社員や、別の目標があるのにも関わらず給料のためだけに当社に入社した社員もいました。この経験をふまえ、今では採用段階から仕事に対する熱意や覚悟を見極めるようにしています。

高度外国人材活用による成果・変化

社員間で信頼関係を築くのに、国籍は関係ない

当社には、職人気質で技量にこだわる社員も少なくありません。しかし、自ら学ぶ意欲があるベトナム人社員は他の社員たちから高く評価されており、プライベートでもバーベキューや温泉旅行に誘われているようです。社員間で信頼関係を築くのに大切なのは本人の誠意であって、国籍は関係ないのだと改めて実感しています。また、ベトナム人社員の近所に住む住民から話しかけられるようになり、外国人材の活躍が企業の信用につながると感じました。今後は、ベトナム法人でベトナム人社員を採用し、日本で受注した案件の一部業務を担ってもらうことを検討しています。その際、当社で7年以上経験を積んできたベトナム人社員に管理を任せるともります。ゆくゆくは、ベトナム現地での橋造りの案件も受注していきたいと考えています。

高度外国人材社員
インタビュー

日本の技術を生かして、
母国で橋を造りたいです。



NGUYEN HUU TRUONG

グエン ヒュウ ツオン 氏

国籍・地域
ベトナム 2017年入社

入社理由

幼いころに大きな橋を見て感動し、将来は橋造りに携わろうと、ハノイ交通運輸大学で土木・建設を専門に勉強しました。矢田工業を知ったきっかけは、大学の友人からの紹介。ベトナムには日本の技術で建設された橋がたくさんあり、日本の橋造りのレベルが高いのは知っていましたし、ベトナム法人を有する矢田工業なら、ゆくゆくはベトナムでの橋造りに携われるかもしれないと考え、入社を決めました。

業務内容

私の仕事は、設計図をもとに橋に必要な各種部材の正確な寸法を計算し、その後の製造工程を決定する「原寸」業務です。当初は、ベトナムと違って確認作業が多いことに戸惑いましたが、自分が1時間の確認を怠ってミスをした場合、工場では作業が数日遅れてしまったり、そもそも作業を中断しなければならなかったりするということがわかり、今では確認作業を入念に行うようになりました。

東北地域で働く理由・良さ

東北には、面倒見の良い人が多いと感じています。近所に住む年配の女性が、私のことを気かけ、体調不良時に病院に付き添ってくれたこともありましたし、会社でも工場の先輩たちが休憩時間に丁寧に日本語を教えてくれたり、事務部門の先輩たちが生活に関する質問にも答えてくれたりして助かりました。周囲の温かい人たちのおかげで、安心して生活し、働くことができています。

今後のキャリアプラン

これまで様々な案件に取り組んできましたが、自分が携わった橋が形になる度に大きなやりがいを感じます。今後は、デザイン性が高い観光目的の橋など、より設計が難しい案件にも挑戦したいです。また、ベトナム法人に業務を依頼する際は、現地社員をしっかりとマネジメントできるように努力します。そしていつか、日本の技術でベトナムに橋を架け、自分の子どもに見せるのが、私の大きな夢です。